

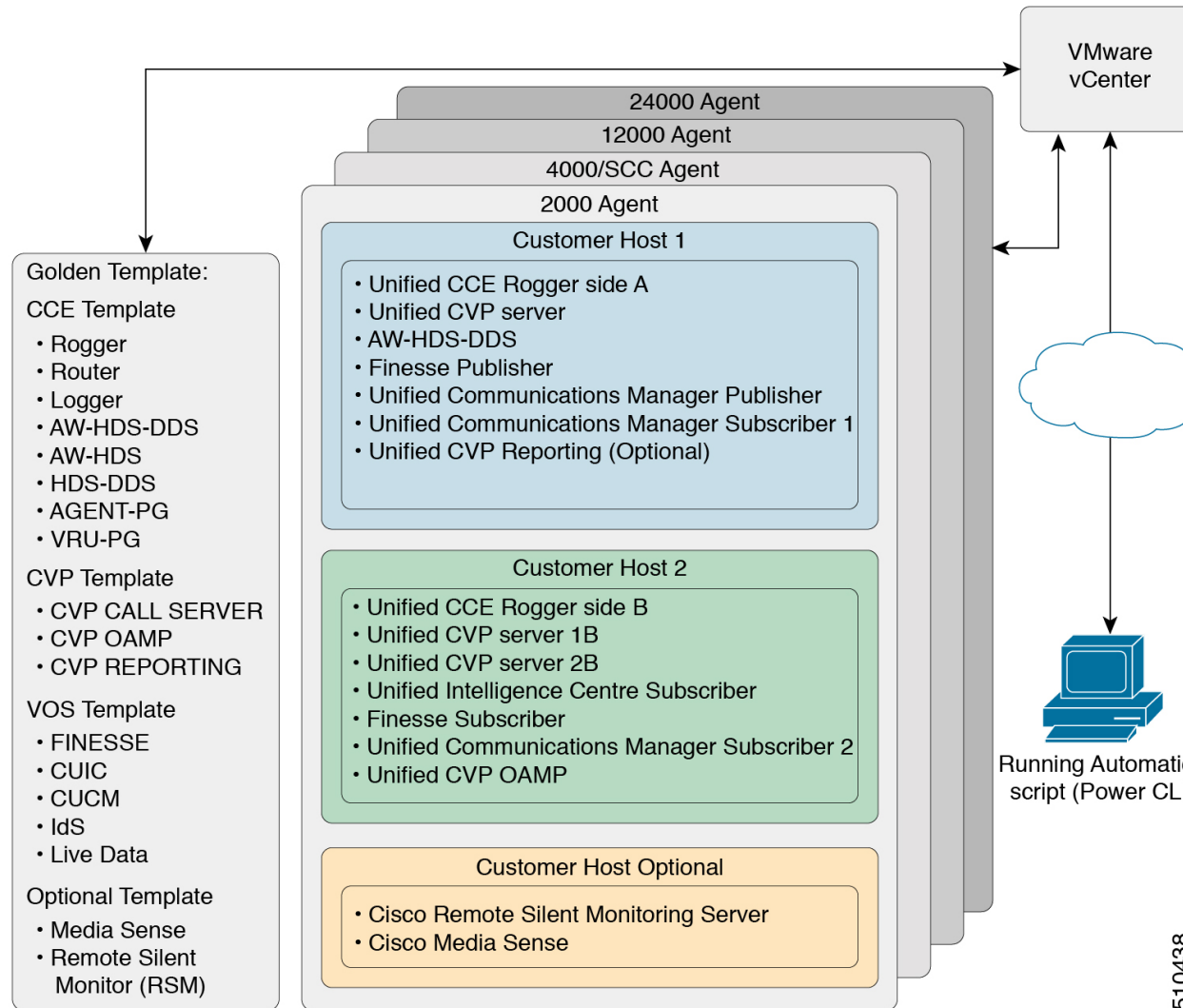


## クローンと OS のカスタマイズ

---

- [クローンと OS のカスタマイズプロセス \(2 ページ\)](#)
- [自動化クローニングと OS のカスタマイズ \(2 ページ\)](#)
- [手動クローニングと OS のカスタマイズ \(18 ページ\)](#)

## クローンと OS のカスタマイズプロセス



## 自動化クローニングと OS のカスタマイズ

次の自動化ソフトウェアおよびダウンロード情報については、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/unified-communications/hosted-collaboration-solution-contact-center/products-installation-guides-list.html>にある『Cisco HCS for Contact Centerインストールおよびアップグレードガイド』の「自動化ソフトウェア」セクションを参照してください。

- GoldenTemplateTool
- PowerCLI
- OVF ツール

- WinImage

## ゴールデンテンプレートをを使用した自動化クローニングと OS のカスタマイズ

順序	タスク	完了
1	ゴールデンテンプレート自動化ツールのダウンロード (3 ページ)	
2	自動化スプレッドシートの入力 (4 ページ)	
3	自動化スクリプトの実行 (6 ページ)	
4	OS のカスタマイズプロセス (7 ページ)	

### ゴールデンテンプレート自動化ツールのダウンロード

ゴールデンテンプレートツールは、ゴールデンテンプレートの自動複製と、カスタマイズされた仮想マシンのカスタマーインスタンスへの展開に必要です。ゴールデンテンプレートツールをダウンロードして、展開するには、システムの **C: ドライブ** のルーツへの [自動化クローニングと OS のカスタマイズ \(2 ページ\)](#) を参照してください。VMware vSphere PowerCLI を使用して自動化スクリプトを参照できます。

抽出されたコンテンツには、次のものが含まれます。

- 自動化スプレッドシート、つまりスクリプトへのインターフェイス。
- 5つのスクリプトを含むスクリプトフォルダ。deployVM.PS1 ファイルは、プライマリの自動化スクリプトで、残りの4つのスクリプトを呼び出します。
- エクスポート用の自動化スクリプトを実行するまで、*Archive*、*Log*、*OVF*、*PlatformConfigRepository* および *Report* フォルダは、空です。

図 1: 自動化ツールのダウンロード

Name	Type	Compressed size	Password ...	Size
scripts	File folder			
base.flp	FLP File	2 KB	No	1,440 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_11.6.1_2K.xls	Microsoft Excel 97-2003 ...	470 KB	No	3,132 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_11.6.1_4K.xls	Microsoft Excel 97-2003 ...	467 KB	No	3,116 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_11.6.1_12K.xls	Microsoft Excel 97-2003 ...	636 KB	No	4,033 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_11.6.1_SCC.xls	Microsoft Excel 97-2003 ...	323 KB	No	2,452 KB

scripts	10/3/2018 7:11 AM	File folder	
base.flp	1/24/2018 2:12 PM	FLP File	1,440 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_12.0.1_2K.xls	9/27/2018 7:33 AM	Microsoft Excel 97...	3,126 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_12.0.1_4K.xls	9/27/2018 7:33 AM	Microsoft Excel 97...	3,118 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_12.0.1_12K.xls	9/27/2018 7:33 AM	Microsoft Excel 97...	4,040 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_12.0.1_24K.xls	10/3/2018 6:13 AM	Microsoft Excel 97...	4,082 KB
GoldenTemplate_VMDataSheet_12.0.1_SCC.xls	9/27/2018 7:33 AM	Microsoft Excel 97...	2,456 KB

510439

スクリプトの初回実行後は：

- *Archive* には、日付とタイムスタンプとともに保存された自動化スプレッドシートの以前のバージョンが保持されます。
- *Log* には、保存されたすべてのログファイルが日付とタイムスタンプとともに保存されます。
- *OVF* では、ツールがエクスポート操作を実行すると、仮想マシンごとにサブフォルダが作成されます。フォルダは、スプレッドシートの `GOLDEN_TEMPLATE_NAME` セルから名前を取得します。これらのフォルダは、お客様の ESXi ホストに仮想マシンをインポートするために使用されます。
- *PlatformConfigRepository* には、ゴールデン テンプレート プロセスの一部として生成された XML ファイルを保持する 3 つのサブフォルダが入力されます。
- *Report* には、日時の記録とともに保存されたすべての自動化レポートが保持されます。

## 自動化スプレッドシートの入力

クローン作成プロセスの自動化スプレッドシートに記入するには、表に記載されている情報を入力します。VM 自動化スクリプトを展開では、仮想マシンをカスタマーインスタンスにクローンするためにこの情報が必要です。

次の表で、各仮想サーバーの値と関連するプロパティに関して説明します。

列	ドメインベースの VM	ワークグループベースの VM	VOS ベースの VM
CREATEVM	対応	対応	対応
カスタマイズ	対応	対応	対応
OPERATION			
SOURCE_HOST_IP	10.10.0.10	10.10.0.10	10.10.0.10
SOURCE_DATASTORE_NAME	Datastore-A0	Datastore-A0	Datastore-A0
SOURCE_VMNAME			
OVF_NETWORK1			
OVF_NETWORK2			

列	ドメインベースの VM	ワークグループベースの VM	VOS ベースの VM
GOLDEN_TEMPLATE_NAME	<i>GT-Rogger</i>	<i>GT-CVP-Server</i>	<i>GT-CUCM</i>
NEW_VM_NAME	<i>CCE-RGR-SIDE-A</i>	<i>CVP-SVR-SIDE-A</i>	<i>UCM-SUB-SIDE-A</i>
DEST_HOST_IP	<i>10.10.1.10</i>	<i>10.10.1.11</i>	<i>10.10.1.12</i>
DEST_DATASTORE_NAME	<i>Datastore-A1</i>	<i>Datastore-A3</i>	<i>Datastore-A6</i>
PRODUCT_VERSION			<i>10.0.1</i>
COMPUTER_NAME	<i>CCE-RGR-SIDE-A</i>	<i>CVP-SVR-SIDE-A</i>	<i>UCM-SUB-SIDE-A</i>
WORK_GROUP	いいえ	はい	
WORK_GROUP_NAME		<i>WORKGROUP</i>	
DOMAIN_NAME	<i>HCSCC.COM</i>		<i>HCSCC.COM</i> (オプション)
TIME_ZONE_LINUX_AREA			北米
TIMEZONE_LINUX_LOCATION			ロサンゼルス
TIME_ZONE_WINDOWS	<i>(GMT-08:00)</i>	<i>(GMT-08:00)</i>	
DOMAIN_USER	<i>HCSCC\administrator</i>		
DOMAIN_PASSWORD	••••••		
PRODUCT_KEY	<i>XXXX-XXXX-XXXX-XXXX</i>	<i>XXXX-XXXX-XXXX-XXXX</i>	
OWNER_NAME	<i>HCS</i>	<i>HCS</i>	
ORGANIZATION_NAME	シスコ	シスコ	シスコ
ORGANIZATION_UNIT			<i>HCS</i>
ORGANIZATION_LOCATION			サンノゼ
ORGANIZATION_STATE			<i>CA</i>
ORGANIZATION_COUNTRY			米国
NTP_SERVER			<i>10.81.254.131</i>
NIC_NUM	<i>2</i>	<i>1</i>	<i>1</i>
IP_ADDRESS_NIC1	<i>10.10.10.10</i>	<i>10.10.10.20</i>	<i>10.10.10.30</i>
SUB_NET_MASK_NIC1	<i>255.255.255.0</i>	<i>255.255.255.0</i>	<i>255.255.255.0</i>
DEFAULT_GATEWAY_NIC1	<i>10.10.10.1</i>	<i>10.10.10.1</i>	<i>10.10.10.1</i>
DNS_IP_NIC1	<i>10.10.10.3</i>	<i>10.10.10.3</i>	<i>10.10.10.3</i>
DNS_ALTERNATE_NIC1			
IP_ADDRESS_NIC2	<i>192.168.10.10</i>		
SUB_NET_MASK_NIC2	<i>255.255.255.0</i>		

列	ドメインベースの VM	ワークグループベースの VM	VOS ベースの VM
DEFAULT_GATEWAY_NIC2	192.168.10.1		
DNS_IP_NIC2	192.168.10.3		
DNS_ALTERNATE_NIC2			
VM_NETWORK			

## 自動化スクリプトの実行

### 始める前に

クライアントコンピュータに VMware vSphere PowerCLI をダウンロードしてインストールします。

詳細については、を参照してください。 [自動化クローニングと OS のカスタマイズ \(2 ページ\)](#)



(注) WinImage (32 ビット) が C:\Program Files (x86)\WinImage にインストールされていることを確認します。



(注) 任意の VOS VM をインポートし、WinImage のライセンスされていないコピーがある場合は、各 VOS プラットフォームのポップアップが表示されます。[OK] をクリックしてインポートプロセスを続行します。

### 手順

- ステップ 1 管理者としてサインインし、**VMware vSphere PowerCLI (32-bit)** アプリケーションを開きます。
- ステップ 2 **get-executionPolicy** コマンドを入力し、制限付き実行ポリシーを決定します。
- ステップ 3 ポリシーが制限されている場合は、**set-executionPolicy** コマンドを入力します。[値を入力 (Supply Values)] プロンプトで、**Unrestricted** と入力したら、**Y** と入力します。  
ローカルコンピュータで署名されていないスクリプトを実行し、他のユーザから署名されたスクリプトを実行するように実行ポリシーを変更します。
- ステップ 4 **CD < GoldenTemplate directory>** コマンドを入力します。
- ステップ 5 次のシンタックスを使用して自動化スクリプトを実行します。

シンタックス :	例 :
<b>&lt;Path to the script&gt; &lt;Path of the spreadsheet&gt; &lt;vCenter IP / Hostname&gt; &lt;vCenter User&gt; &lt;Password to connect to vCenter&gt;</b>	.\scripts\DeployVM.PS1 C:\GoldenTemplate\GoldenTemplate_VMDataSheet.xls <b>testvCenter testuser testpassword</b>

これにより、データを解析および検証するスクリプトが開始され、GoldenTemplate ディレクトリにエントリが作成されます。画面に完了率が表示され、[レポート (Report)] フォルダにステータスレポートが生成されます。

ステータスレポート内の[ログファイル (Log File)] リンクをクリックし、エラー状態をデバグし、シスコのサポートにお問い合わせください。

図 2: ゴールデンテンプレート ツールのステータスレポート

## Status Report of Golden Template Tool

VM NAME	OPERATION	HOST IP	DATASTORE NAME	STATUS	DESCRIPTION
40PG-CUCM-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-CUCM-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-Finesse-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-Finesse-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-CUCM-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-CUCM-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-Finesse-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success
40PG-Finesse-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-fl-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed success

[Log File](#)

次のタスク

[OS のカスタマイズプロセス \(7 ページ\)](#)

## OS のカスタマイズプロセス

順序	タスク	完了
<b>Windows のカスタマイズプロセス</b>		
1	<a href="#">ネットワークアダプタ設定と電源投入の検証 (8 ページ)</a>	
2	<a href="#">レジストリ設定の編集および VM の再起動 (9 ページ)</a>	
<b>VOS のカスタマイズプロセス</b>		
1	<a href="#">DNS サーバーの構成</a>	

順序	タスク	完了
2	DNS サーバーのホスト構成	
3	ネットワークアダプタ設定と電源投入の検証 (8 ページ)	

## ネットワークアダプタ設定と電源投入の検証

すべての Windows VM に対してこの手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** vSphere クライアントで仮想マシンを選択します。[VM] を右クリックし、**[Edit Settings (設定の編集)]** を選択します。
- ステップ 2** **[ハードウェア (Hardware)]** タブで各ネットワークアダプタを選択します。[デバイスの状態 (Device Status)] グループの **[電源投入時に接続 (Connect at power on)]** がオンになっていることを確認します。
- ステップ 3** 仮想マシンの電源をオンにします。
- 重要** Ctrl + Alt + Delete は押さないでください。電源投入後に Ctrl + Alt + Delete を押した場合、カスタマイズは反映されません。手動でカスタマイズを完了する必要があります。
- ステップ 4** VM が再起動し、カスタマイズを適用するまで待ちます。この処理に 5 ~ 10 分かかることがあります。
- 

## 電源投入時の **Ctrl+Alt+Del** の押下からの回復

[ネットワークアダプタ設定の検証 (Validate Network Adapter Settings)] および [電源オン (Power On)] は、カスタマイズプロセスを初期化します。電源投入後に、**Ctrl-Alt-Delete** を押すことを要求されますが、これを押すとカスタマイゼーションが反映されなくなります。よって、**Ctrl-Alt-Del** は押さないでください。誤って **Ctrl-Alt-Del** を押した場合は、以下のオプションを使用してカスタマイゼーションを復元してください。

### 手順

- 
- ステップ 1** C:/GoldenTemplateTool/Archive から GoldenTemplate\_VMDataSheet.xls を取得します。
- ステップ 2** GoldenTemplate\_VMDataSheet.xls コピーし、C:/GoldenTemplateTool に貼り付けます。
- ステップ 3** GoldenTemplate\_VMDataSheet.xls で、再展開が必要な行を除き、CREATEVM 列のすべての行で、**[いいえ (No)]** を選択します。
- ステップ 4** もしくは、VM に対して手動でデータを入力します。
-



## レジストリ設定の編集および VM の再起動

すべての Windows VM に対してこの手順を実行します。

### 手順

- 
- ステップ 1** [スタート (Start) ]>[すべてのプログラム (All Programs) ]>[管理ツール (Administrative Tools) ]>[コンピュータマネージャ (Computer Management) ]の順に選択します。
- ステップ 2** 左パネルで、[コンピュータ管理 (ローカル) (Computer Management (Local)) ]>[システムツール (System Tools) ]>[ローカルユーザーとグループ (Local Users and Groups) ]>[ユーザー (Users) ]の順に選択します。
- ステップ 3** 右側のパネルで、[管理者 (Administrator) ]を右クリックし、[パスワードの設定 (Set Password) ]を選択します。
- ステップ 4** 警告メッセージで[続行 (Proceed) ]をクリックし、新規パスワードを入力します。
- ステップ 5** [OK] をクリックします。
- ステップ 6** [スタート (Start) ]>[実行 (Run) ]>[Regedit]の順に選択し、Registry Editor にアクセスします。
- ステップ 7** [HKEY\_LOCAL\_MACHINE]>[ソフトウェア (SOFTWARE) ]>[Microsoft]>[Windows NT]>[現在のバージョン (Current Version) ]>[Winlogon]の順に選択します。
- [AutoAdminLogon] を 0 に設定します。
  - DefaultDomainName と DefaultUserName のキーが存在する場合は、これらキーを削除します。
- ステップ 8** マシンを再起動します。マシンがドメインに存在する場合は、ドメインにログインします。
- ステップ 9** NET TIME /DOMAIN:<domain> コマンドを入力し、時間をドメインコントローラと同期します。
- 

## OVF を使用した自動化クローニングと OS のカスタマイズ

順序	タスク	完了
1	ゴールデンテンプレート自動化ツールのダウンロード (3 ページ)	
2	エクスポート用の自動化スプレッドシートの入力 (10 ページ)	
3	エクスポート用の自動化スクリプトの実行 (11 ページ)	
4	目的の場所への転送 (12 ページ)	

順序	タスク	完了
5	ロケーションの準備状況の確認 (12 ページ)	
6	インポート用のスプレッドシートの入力 (13 ページ)	
7	インポート用の自動化スクリプトの実行 (17 ページ)	
8	OS のカスタマイズプロセス (7 ページ)	

## エクスポート用の自動化スプレッドシートの入力

### 前提条件：

エクスポートプロセスの前に、VM にエクスポートするネットワークアダプタが 1 つしかないことを確認します。

エクスポートする自動化スプレッドシートを入力したら、エクスポート自動化スクリプトが列のみを入力して、エクスポート自動化スクリプトが、GoldenTemplate のサブフォルダである OVF にエクスポート OVF をエクスポートできるようにします。

表 1: エクスポート用の自動化スプレッドシートに必要な列

列	説明	例
CREATEVM	VM の作成を省略するには、 <b>[いいえ (No)]</b> を選択します。	いいえ
OPERATION	<b>[ExportServer]</b> を選択してスクリプトで実行する操作をします。	ExportServer
SOURCE_HOST_IP	エクスポートする VM をホストする物理サーバーの IP アドレス。	xx.xx.xxx.xxx
SOURCE_DATASTORE_NAME	VMware で定義されたデータストアの名前。	datastore1(3)
SOURCE_VMNAME	エクスポートする VM の名前には、スペースと特殊文字は使用できません。最大 32 文字です。	TemplateRoggerA

列	説明	例
GOLDEN_TEMPLATE_NAME	エクスポートされた VM の新しい名前にはスペースや特殊文字は使用できません。最大 32 文字です。	CustomerRoggerA

その他すべての列は空白のままにします。

## エクスポート用の自動化スクリプトの実行

エクスポートスクリプトは、エクスポートスプレッドシートデータを処理し、必要なフィールドが正しい形式かどうかを検証します。

スクリプトにより、目的の場所に OVF をインポートできるフォルダが作成されます。



(注) GoldenTemplate ディレクトリからスクリプトを実行します。

### 始める前に

クライアントコンピュータに VMware vSphere PowerCLI をダウンロードしてインストールします。

詳細については、を参照してください。 [自動化クローニングと OS のカスタマイズ \(2 ページ\)](#)

### 手順

- ステップ 1 **VMware vSphere PowerCLI (32 ビット)** を管理者として起動します。
- ステップ 2 **get-executionPolicy** コマンドを入力して、制限付き実行ポリシーが有効にするか、無効にするかを決定します。
- ステップ 3 ポリシーが制限されている場合は、**set-executionPolicy** コマンドを入力します。[値の入力 (Supply Values) ]プロンプトで、「**Unrestricted**」と入力します。次に、「**y**」と入力します。これにより、実行ポリシーが変更され、ローカルコンピュータで作成した未署名のスクリプトと他のユーザーからの署名済みスクリプトを実行できるようになります。
- ステップ 4 **cd < GoldenTemplate directory >** コマンドを入力します。
- ステップ 5 次のシンタックスを使用して、自動化スクリプトを実行するコマンドを入力します。

シンタックス :	例 :
<Path to the script> <Path of the spreadsheet> <vCenter IP / Hostname> <vCenter User> <Password to connect to vCenter>	<pre>.\scripts\DeployVM.PS1 C:\GoldenTemplate\GoldenTemplate_VMDataSheet.xls testvCenter testuser testpassword</pre>

これにより、データを解析、検証し、GoldenTemplate ディレクトリの OVF フォルダにエンタリを作成するスクリプトが開始されます。

エラーが発生してもスクリプトは実行されます。エラーが画面に表示され、ログファイルに保存されます。

このタスクが完了するまで、数時間かかります。

スクリプトが完了すると、Report フォルダにステータスレポートが生成されます。ステータスレポートには、ログファイルへのリンクがあります。このファイルを参照して、エラー状態をデバッグし、シスコのサポートにお問い合わせください。

図 3: ゴールデンテンプレート ツールのステータスレポート

Status Report of Golden Template Tool					
VM NAME	OPERATION	HOST IP	DATASTORE NAME	STATUS	DESCRIPTION
40PG-CUCM-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully

[Log File](#)

## 目的の場所への転送

エクスポートプロセスが正常に完了したら、OVF ファイルを任意の場所に転送できます。

また、GoldenTemplate ディレクトリを USB デバイスに転送することもできます。



(注) この場合は、インポートスプレッドシートに入力し、USB ドライブからインポートスクリプトを実行します。

## ロケーションの準備状況の確認

インポートスプレッドシートを完成させ、インポートスクリプトを実行する前に、環境を次のように設定する必要があります。

- ESXihost または vCenter
- データストア

## インポート用のスプレッドシートの入力

インポート用の自動化スプレッドシートに入力するには、次の表に示す情報を使用します。インポート自動化スクリプトでは、目的の ESXi ホストに仮想マシンをインポートするためにこの情報が必要です。

次の表で、各仮想サーバーの値と関連するプロパティに関して説明します。

表 2: インポート用自動化スプレッドシート列の入力

列	説明	例
CREATEVM	<p>[はい (Yes)] をクリックすると、VM を作成します。</p> <p>[いいえ (No)] をクリックすると、テンプレートを作成します。</p>	はい
OPERATION	<b>ImportServer</b> を選択します。	ImportServer
カスタマイズ	<p>[はい (Yes)] を選択すると、インポート済みサーバーにスプレッドシートの値を適用できます。</p> <p>スプレッドシート入力時に値が無い場合は、[いいえ (No)] を選択します。</p> <p>値がある場合で、[いいえ (No)] を選択すると、値は適用されません。</p>	はい
SOURCE_HOST_IP	空欄のまま	空欄のまま
SOURCE_DATASTORE_NAME	空欄のまま	空欄のまま
SOURCE_VMNAME	ブランクのままにします。	ブランクのままにします。
GOLDEN_TEMPLATE_NAME	<i>OVF</i> サブフォルダにあるエクスポートされたゴールデンテンプレートの名前を入力します。	GTCS-1A
NEW_VM_NAME	新しい VM の名前。スペースや特殊文字は使用できません。最大32文字です。	CustomerRoggerA
DEST_HOST_IP	新しい VM の ESXi ホストの IP アドレスまたは DNS 名。	xx.xx.xxx.xxx

列	説明	例
DEST_DATASTORE_NAME	新しい VM のデータストアの名前。	datastore2(1)
PRODUCT_VERSION	現在、このフィールドは VOS 製品にのみ適用されます	11.x.x
COMPUTER_NAME	新しいコンピュータの NET BIOS 名。最大 15 文字。特殊文字は使用しないでください。	CUST-Rogger-A
WORK_GROUP	ドロップダウン： <b>YES</b> に設定すると VM にワークグループが追加され、 <b>WORK_GROUP_NAME</b> が有効化されます。 <b>NO</b> に設定すると VM にドメインが追加され、 <b>DOMAIN_NAME</b> 、 <b>DOMAIN_USER</b> および <b>DOMAIN_PASSWORD</b> が有効化されます。	いいえ
WORK_GROUP_NAME	ワークグループ名を入力します。 <b>WORK_GROUP</b> が、 <b>YES</b> に設定されている場合のみ使用します。	該当なし
DOMAIN_NAME	ドメイン名を入力します。 <b>WORK_GROUP</b> が <b>NO</b> に設定された場合にのみ使用されます。	xx.xx.xxx.xxx
TIME_ZONE_LINUX_AREA	Unified CM に設定されるタイムゾーン地域のドロップダウン選択。米国の場合は、 <i>[米国 (America) ]</i> を選択します。	北米
TIME_ZONE_LINUX_LOCATION	Unified CM、CUIC、または Finesse に設定されるタイムゾーンの場所のドロップダウン選択。	東部

列	説明	例
TIME_ZONE_WINDOWS	Unified CVP および Unified CCE VM に設定するタイムゾーンのドロップダウンの選択肢。	(GMT-05:00) 東部時間 (米国およびカナダ)
DOMAIN_USER	新しいコンピュータをドメインに追加する権限を持つドメインユーザのユーザ名。 WORK_GROUP が <b>NO</b> に設定された場合にのみ有効化されます。	DOMAIN\Username (オプション)
DOMAIN_PASSWORD	package123 ドメインユーザのパスワード。WORK_GROUP が <b>NO</b> に設定された場合にのみ有効化されます。	package123
PRODUCT_KEY	有効な Windows OS プロダクトキー。形式は XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX です。	ZZM2-Y330L-HH123-99Y1B-GJ20B
OWNER_NAME	所有者の完全な名前。 <i>Administrator</i> や <i>Guest</i> という名前は使用できません。 これは、OS_TYPE が Windows 2016 の場合は必須フィールドです。	LabAdmin
ORGANIZATION_NAME	Unified CM、Cisco Unified Intelligence Center、MediaSense、またはFinesse に設定します。	MyName
ORGANIZATION_UNIT	Unified CM、Cisco Unified Intelligence Center、MediaSense、またはFinesse に設定します。	MyUnit
ORGANIZATION_LOCATION	Unified CM、Cisco Unified Intelligence Center、MediaSense、またはFinesse に設定します。	MyCity

列	説明	例
ORGANIZATION_STATE	Unified CM、Cisco Unified Intelligence Center、MediaSense、またはFinesse に設定します。	MyState
ORGANIZATION_COUNTRY	Unified CM、Cisco Unified Intelligence Center、MediaSense または Finesse に対して <b>[組織の国 (Organization Country)]</b> ドロップダウンリストを設定します。	アメリカ合衆国
NTP_SERVER	NTP サーバの IP アドレス。	xx.xx.xxx.xxx
NIC_NUM	フィールドの値は VM_TYPE フィールドに基づいて事前に入力されており、保護されています。値は、「1」または「2」です。	2
IP_ADDRESS_NIC1	NIC1 の有効な IPv4 アドレス。 NIC_NUM フィールドの値が 1 の場合にのみ有効です。	xx.xx.xxx.xxx
SUB_NET_MASK_NIC1	NIC1 の有効なサブネットマスク (IPv4 アドレス)。	xx.xx.xxx.xxx
DEFAULT_GATEWAY_NIC1	NIC1 の有効なデフォルトゲートウェイ (IPv4 アドレス)。	xx.xx.xxx.xxx
DNS_IP_NIC1	NIC1 のプライマリ DNS の有効な IPv4 アドレス。	xx.xx.xxx.xxx
IP_ADDRESS_NIC2	NIC2 の有効な IPv4 アドレス。 NIC_NUM フィールドの値が 2 の場合にのみ有効です。	xx.xx.xxx.xxx
SUB_NET_MASK_NIC2	NIC2 の有効なサブネットマスク (IPv4 アドレス)。Unified CCE VM のみ。	255.255.255.255
DNS_IP_NIC2	NIC2 のプライマリ DNS の有効な IPv4 アドレス。Unified CCE VM のみ。	xx.xx.xxx.xxx



列	説明	例
DNS_ALTERNATE_NIC2	NIC2 の代替 DNS の有効な IPv4 アドレス。Unified CCE VM のみ。NIC2 のプライマリ DNS のアドレスとは異なっている必要があります。(オプション)	XX.XX.XXX.XXX
VM_NETWORK	有効なネットワークアダプタ設定	VLAN2

## インポート用の自動化スクリプトの実行

スクリプトは、スプレッドシートの値を仮想マシンに適用できるように、OVF ファイルをインポートしてテンプレートに変換します。



- (注) 任意の VOS VM をインポートし、WinImage の違法コピーがある場合は、各 VOS のプラットフォームにポップアップダイアログが表示されます。**[OK]** をクリックしてインポートプロセスを続行します。

### 手順

- ステップ 1 VMware vSphere PowerCLI (32 ビット) を管理者として起動します。
- ステップ 2 **get-executionPolicy** コマンドを入力して、制限付き実行ポリシーが有効にするか、無効にするかを決定します。
- ステップ 3 ポリシーが制限されている場合は、**set-executionPolicy** コマンドを入力します。[値の入力 (Supply Values) ]プロンプトで、「**Unrestricted**」と入力します。次に、「**y**」と入力します。これにより、実行ポリシーが変更され、ローカルコンピュータで作成した未署名のスクリプトと、他のユーザーからの署名済みスクリプトを実行できるようになります。
- ステップ 4 **cd < GoldenTemplate directory>** コマンドを入力します。
- ステップ 5 次のシンタックスを使用して、自動化スクリプトを実行するコマンドを入力します。

シンタックス :	例 :
<Path to the script> <Path of the spreadsheet> <vCenter IP / Hostname> <vCenter User> <Password to connect to vCenter>	.\scripts\DeployVM.PS1 C:\GoldenTemplate\GoldenTemplate_VMDataSheet.xls testvCenter testuser testpassword

これにより、データを解析し、データを検証し、GoldenTemplate ディレクトリの OVF フォルダから OS レベルのカスタマイズを使用して仮想マシンを展開するスクリプトが開始されます。画面に完了率が表示されます。

エラーが発生してもスクリプトは実行されます。エラーが画面に表示され、ログファイルに保存されます。

このタスクが完了するまで、数時間かかります。

スクリプトが完了すると、Report フォルダにステータスレポートが生成されます。ステータスレポートには、ログファイルへのリンクがあります。このファイルを参照して、エラー状態をデバッグし、シスコのサポートにお問い合わせください。

図 4: ゴールデンテンプレート ツールのステータスレポート

Status Report of Golden Template Tool					
VM NAME	OPERATION	HOST IP	DATASTORE NAME	STATUS	DESCRIPTION
40PG-CUCM-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust9-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust9-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-CUCM-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust10-Pub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b3.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully
40PG-Finesse-Cust10-Sub	CREATE VM from A Template	aurora-f1-ch10-b6.cisco.com	Solidfire-HCS-40PG-3	Success	VM deployed successfully

[Log File](#)

510047

## 手動クローニングと OS のカスタマイズ

- [Windows ベースのコンポーネントのカスタマイズファイルの作成 \(18 ページ\)](#)
- [ゴールデンテンプレートから仮想マシンを展開 \(19 ページ\)](#)
- [VOS 製品仮想マシンの応答ファイル生成 \(20 ページ\)](#)
- [仮想マシンに応答ファイルをコピー \(22 ページ\)](#)

### Windows ベースのコンポーネントのカスタマイズファイルの作成

Windows ベースのコンポーネントのカスタマイズファイルを作成するには、以下の手順を実行します。

#### 手順

- ステップ 1** VMware vSphere クライアントで、[表示 (View)] > [管理 (Management)] > [カスタマイズ仕様マネージャ (Customization Specification Manager)] の順に選択します。
- ステップ 2** [New] をクリックします。
- ステップ 3** 新しいカスタマイズ仕様ページで、新しいカスタマイズ仕様を入力します。
  - a) [対象仮想マシン OS (Target Virtual Machine OS)] メニューから [Windows] を選択します。

- b) [カスタマイズ仕様情報 (Customization Specification Information)] で、仕様の名前とオプションの説明を入力したら、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 4** 登録情報ページで、ゲストオペレーティングシステムのこのコピーの登録情報を指定します。仮想マシンの所有者名と組織を入力したら、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5** コンピュータ名ページで、ネットワーク上のこの仮想マシンを識別する最適なコンピュータ名オプションをクリックします。
- ステップ 6** Windows ライセンスページで、次のゲストオペレーティングシステムの Windows ライセンス情報を指定します。
- a) 製品のボリュームライセンスキーを入力します。
- b) [サーバーライセンス情報を含める (Include Server License information)] (サーバー ゲスト オペレーティング システムをカスタマイズするために必要) をオンにします。
- c) [サーバーごと (Per server)] をクリックして、サーバーライセンスモードを指定します。サーバーが受け入れる接続の最大数として 5 を入力します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7** 管理者パスワードページで、管理者アカウントのパスワードを入力し、パスワードを再入力して確認します。[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8** タイムゾーンページで、仮想マシンのタイムゾーンを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9** 一度実行ページで、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10** ネットワークページで、ゲスト オペレーティング システムに適用するネットワーク設定のタイプを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- a) 標準設定では、vCenter サーバーは DHCP サーバーからすべてのネットワーク インターフェイスを構成できます。
- b) カスタム設定では、ネットワーク設定を手動で構成する必要があります。
- ステップ 11** ワークグループまたはドメインページで、[Windows サーバードメイン (Windows Server Domain)] をクリックし、指定したドメインにコンピュータを追加する権限を持つユーザーアカウントの接続先ドメイン、ユーザー名、およびパスワードを入力します。
- ステップ 12** オペレーティングシステムオプションページで、[新規セキュリティ ID (SID) の生成 (Generate New Security ID (SID))] をオンにして新しいセキュリティ ID を生成し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 13** 完了可能ページで、カスタマイズファイルのサマリーを見直したら、[完了 (Finish)] をクリックします。

## ゴールデンテンプレートから仮想マシンを展開

ゴールデンテンプレートから仮想マシンを展開するには、以下の手順を実行します。展開チェックリストを使用して、展開のホスト、IP アドレス、および SAN の場所を記録します。

## 手順

- 
- ステップ 1 テンプレートを右クリックし、このテンプレートで[仮想マシンの展開 (Deploy Virtual Machine) ] を選択します。
  - ステップ 2 仮想マシン名を入力し、場所を選択したら、[次へ (Next) ] をクリックします。
  - ステップ 3 ホスト/クラスタページで、テンプレートを保存するホストを指定します。ホスト/クラスタが有効であることを確認します。[次へ (Next) ] をクリックします。
  - ステップ 4 [詳細設定 (Advanced) ] をクリックします。展開する Contact Center コンポーネントの Cisco HCS for CC に準拠する仮想マシンに対して有効なデータストアを指定します。
  - ステップ 5 [次へ (Next) ] をクリックします。
  - ステップ 6 インストールするコンポーネントのデータストア RAID レベルが、導入モデルの SAN 構成のテーブルで指定された条件に準拠していることを確認します。
  - ステップ 7 **[Thick provisioned Lazy Zeroed]** をクリックして、仮想ディスクに一定量のストレージスペースを割り当てます。[次へ (Next) ] をクリックします。
  - ステップ 8 既存のカスタマイズ仕様を使用して[カスタマイズ (Customize) ] をクリックし、[次へ (Next) ] をクリックします。
  - ステップ 9 [テンプレート用カスタマイズファイル (Customization File for the Template) ] で作成したカスタマイズファイルを選択します。
  - ステップ 10 新しい仮想マシンの設定を見直します。[完了 (Finish) ] をクリックします。
- 

## VOS 製品仮想マシンの応答ファイル生成

VOS 製品仮想マシンの応答ファイルを生成するには、以下の手順を実行します。

## 手順

- 
- ステップ 1 [http://www.cisco.com/web/cuc\\_afg/index.html](http://www.cisco.com/web/cuc_afg/index.html) のリンクを開きます。
  - ステップ 2 以下のクラスタ全体パラメータを構成します。
    - a) [ハードウェア (Hardware) ] で、[プライマリノードのインストール先仮想マシン (Virtual Machine for Primary Node Installed On) ] を選択します。
    - b) [製品 (Product) ] で、製品名と製品バージョンを選択します。
    - c) [管理者のログイン情報 (Administrator credentials) ] で、管理者のユーザー名とパスワードを入力し、パスワードを確認します。
    - d) [セキュリティパスワード (Security Password) ] で、パスワードを入力し、パスワードを確認します。
    - e) [アプリケーションユーザーログイン情報 (Application user credentials) ] で、アプリケーションユーザー名とパスワードを入力し、パスワードを確認します。

すべてのノードで、同じシステムアプリケーションまたは管理者ログイン情報を使用します。

- f) [証明書情報 (Certificate information)] で、Unified CM および Unified Intelligence Center の組織名、ユニット、場所、都道府県、国を入力します。
- g) [SMTP] で、[SMTPホストの構成 (Configure SMTP host)] ボックスをオンにし、SMTP の場所を入力します。

**ステップ 3** 次のプライマリ ノードパラメータを構成します。

- a) [NICインターフェイス設定 (NIC Interface Settings)] で、[自動ネゴシエーションを使用する (Use Auto Negotiation)] チェックボックスをオンにします。  
(注) MTU 設定は変更しないでください。
- b) [ネットワーク情報 (Network Information)] で、IP アドレス、ホスト名、IP マスク、およびゲートウェイ情報を入力します。  
**[IPアドレス解決にDHCPを使用する (Use DHCP for IP Address Resolution)]** オプションは選択しないでください。
- c) [DNS] で、[クライアントDNSの構成 (Configure Client DNS)] オプションを選択し、プライマリ DNS IP と DNS 名を入力します。
- d) [タイムゾーン (Timezone)] で、[プライマリタイムゾーン設定を使用する (Use Primary Time Zone Settings)] オプションを選択します。
- e) [ネットワークタイムプロトコル (Network Time Protocol)] で、[ネットワークタイムプロトコルを使用する (Use Network Time Protocol)] をオンにし、少なくとも1台の外部NTPサーバーに対して IP アドレス、NTP サーバー名、またはNTP サーバープール名を入力します。

**ステップ 4** 次のセカンダリノードパラメータを構成します。

- a) [NICインターフェイス設定 (NIC Interface Settings)] で、[自動ネゴシエーションを使用する (Use Auto Negotiation)] チェックボックスをオンにします。  
(注) MTU 設定は変更しないでください。
- b) [ネットワーク情報 (Network Information)] で、IP アドレス、ホスト名、IP マスク、およびゲートウェイ情報を入力します。  
**[IPアドレス解決にDHCPを使用する (Use DHCP for IP Address Resolution)]** オプションは選択しないでください。
- c) [DNS] で、[クライアントDNSの構成 (Configure Client DNS)] オプションを選択し、プライマリ DNS IP と DNS 名を入力します。
- d) [タイムゾーン (Timezone)] で、[プライマリタイムゾーン設定を使用する (Use Primary Time Zone Settings)] をオンにします。
- e) [セカンダリノードの一覧 (List of Secondary Nodes)] で、[セカンダリノードの追加 (Add Secondary Node)] をクリックします。

**ステップ 5** [応答ファイルとライセンスMACの生成 (Generate Answer files & License MAC)] をクリックし、Publisher と1つ目の Subscriber に対して応答ファイルをダウンロードします。

- (注) Unified CM の場合は、2 つ目の Subscriber に対する応答ファイルが必要な場合は、応答ファイルジェネレータ Web ページを閉じて開き、Publisher と 2 つ目の Subscriber の詳細を入力します。1 つ目の Subscriber と一緒に Publisher ファイルをすでにダウンロードしているのので、2 つ目の Subscriber の応答ファイルのみをダウンロードします。

**ステップ 6** VM に応答ファイルをマウントには、セクションに記載されている手順を実行します。

## 仮想マシンに応答ファイルをコピー

ゴールデンテンプレート自動化ツールは、無人インストール用の応答ファイルを生成します。各応答ファイルは、`C:\GoldenTemplateTool_IO\PlatformConfigRepository` ディレクトリにコピーされます。これらの応答ファイルはフロッピーディスクファイル形式に変換され、インストールプロセス中に VOS 製品 DVD に加えて使用されます。

### 始める前に

自動化スクリプトを実行するクライアントコンピュータに WinImage 8.5 をダウンロードし、インストールします。 <http://winimage.com/download.htm>

### 手順

- ステップ 1** 生成された応答ファイルをフォルダにコピーし、その名前を `platformConfig.xml` に変更します。
- 例：  
`CUCM_PUB_SideA_platformConfig.xml` を別のロケーションにコピーしたら、その名前を `platformConfig.xml` に変更します。
- ステップ 2** WinImage を起動し、[ファイル (File)] > [新規 (New)] > [1.44 MB] の順に選択し、[OK] をクリックします。
- ステップ 3** `platformConfig.xml` をドラッグし、WinImage にドロップします。
- ステップ 4** ファイルを挿入するように求められたら、[はい (Yes)] をクリックします。
- ステップ 5** [ファイル (File)] > [名前を付けて保存 (Save as)] の順に選択します。
- ステップ 6** [タイプとして保存 (Save as type)] リストから、[仮想フロッピー画像 (Virtual floppy image)] を選択します。ファイルに `platformConfig.flp` という名前を付け、[保存 (Save)] をクリックします。
- ステップ 7** vSphere インフラストラクチャクライアントを開き、vCenter に接続します。VM が展開されているお客様の ESXi ホストに移動します。
- ステップ 8** [構成 (Configuration)] タブに移動します。ストレージセクションにある [データストア (Datastore)] を右クリックし、[データストアを参照 (Browse Datastore)] を選んだら、`<Product_Node>` という名前のフォルダを作成します。
- 例：  
`CUCM_PUB`。

- ステップ 9 <Product\_Node> というフォルダに *platformConfig.flp* をアップロードします。
- 例：  
*CUCM\_PUB*。
- ステップ 10 <Product\_Node> Virtual Machine (例：*CUCM\_PUB\_SideA*) に移動します。右クリックして、[設定の編集 (Edit Settings)] を選択します。
- ステップ 11 [ハードウェア (Hardware)] タブで、[フロッピードライブ1 (Floppy drive 1)] をクリックし、[データストアの既存のフロッピー画像を使用する (Use The Existing Floppy Image in Datastore)] ラジオボタンを選択します。
- ステップ 12 データストアで、<Product\_Node> folder (例：*CUCM\_PUB*) から **platformConfig.flp** をマウントし、[OK] をクリックします。
- ステップ 13 ネットワークアダプタとフロッピードライブに対して、デバイスのステータスが、[電源投入時に接続 (Connect at Power On)] になっていることを確認し、[OK] をクリックします。
-

■ 仮想マシンに回答ファイルをコピー